



# 鯉沢中部小学校だより せおと

平成24年9月24日 No.5 発行者 校長 岡崎紀子

## 暑い夏を振り返って

今年の夏は、すごく暑かったというイメージが強いですが、猛暑日や真夏日の合計日数は記録的というわけではないそうです。ただ、真夏日の継続日数は記録的だそうです。例年ですと、雨が降ったり、少し涼しくなったりしますので、それほど感じなかったのかもしれませんが。残暑はいつまで続くのでしょうか。

暑い夏を振り返りますと、私たちに感動を与えてくれたロンドン五輪、首位をキープしているヴァンフォーレ甲府の活躍、夏の高校野球では8年ぶりの準決勝進出を決めた東海大甲府の活躍が大きな話題になりました。

それ以上に「中部小ここにあり」と再認識したことがあります。それは、7月31日に行われた富士川町水泳記録会には11人全員が参加し、しかも、50m公認プールですので、泳ぎやすかったのでしょうか、11人全員が自己ベスト記録を更新したことです。特に、2年生は、自分の身長より深い水深1.5mのプールで50m泳ぎ切りました。そして、まだまだ続きがあります。1ヶ月後に行われた本校での水泳記録会では、夏休み中の練習成果が発揮され、応援も大きかったこともあり、さらに記録を更新しました。6年生4人は、標準記録を突破し、県の大会にも参加しました。がんばったがんばった11人の子どもたちです。大きな拍手を送ります。



富士川町水泳記録会



山梨県学童水泳大会



中部小水泳記録会

左に私たちを熱くしてくれたロンドンオリンピックのことを記載しましたが、日本の獲得メダル数は38個。これは、日本のオリンピック史上最多を記録したそうです。その中でも特に団体戦でのメダル獲得が目立ちましたね。競泳男子団体の試合後のインタビューで、松田選手が「『康介さんを手ぶらで帰すわけにはいかないぞ。』と3人で話していました。」というのが印象的でした。3人の強い思いが銀メダル獲得を為し得たのでしょうか。相手のことや状況を受け入れて他者のために自分の力をどう発揮するかということを考えさせられました。

東北大震災から1年半余たちますが、このときに津波に耐えた陸前高田市の「奇跡の一本松」の本が本校の図書室の地震コーナーに並べられていました。この本のことを学校便りに掲載しようと思っていましたところ、5年生の児童がこの本の読書感想文を書きましたので、掲載します。一時は弱気になってしまった一本松ですが、自分がここにこうして立っているのは、残されたのではなく、仲間が自分を守ってくれたことに気がつきます。そして、ここに松原があったことや恐ろしい津波の歴史を伝えるためにも、あきらめずに気持ちをしっかり持つことができるようになりました。結局、この松は、枯死してしまい、9月12日伐採されました。しかし、保存処理されて来年の2月にはまた元の姿となって、陸前高田市を見守ることになっているそうです。

「絆」は、2011年の漢字として第1位になりましたが、まさしく人と人とのつながりである「絆」から生まれた心に残るおはなしを紹介しました。



### 大切な木を守る

「あつ、これ知っている。」  
と、思わずさげました。夏休み直前に学校の図書館でぼくはこの本を見つけた。陸前高田市で津波にあり、一本だけ残った松のことが書いてある「奇跡の一本松」の本を。すぐに手に取り夢中で読み始めました。すごいスピードで読みました。この松を残すために、植木屋さんや樹匠さんが大変心配して、松の体を温めたり、塩水をすい上げたりなど、苦労したことや努力したことがよくわかりました。ぼくにもその思いが伝わってきました。一本松は、三回も津波にあっていることも知りました。歴史がある松だからこそのみんなにとっても大切な木なんだと思います。  
ぼくにも大切にしたい木があります。それは、ぼくが通った保育園にある桜の木です。もう老木ですが、太い木からのびた枝はとても立派です。保育園へ通っている時は、その木の下で砂遊びをしたり、追いかけて遊ぶことが多かった。夏には日かげをつくってくれて、とてもすずしかったです。その桜の木は、樹齢八十年くらいです。ぼくが年長の時に亡くなってしまったばかりのおじいちゃんが小学校一年生の時に植えた桜だそう。だから、とても親しみを抱いています。ぼくが卒園すると保育園は、休園になってしまいました。が、小学校の上にあるので、今もぼくを見守ってくれています。忘えんしてくれているような気がする。きっと、松を見守っている人たちもこんな気持ちではないでしょうか。

一本松自身も弱気になってしまったこともあります。仲間がみんな流されてしまい自分もこのまま死んでしまえばいいと心まで弱ってしまった時もありました。  
「神様が残してくれた命だ。おまえはおれたちの勇気だ。」  
このことばにはげまされて、一本松は元気を取りもどしました。一本松が、自分だけの命ではないんだとあきらめずにがんばったところに感動しました。きっと、自分があきらめてしまったら応えんしてくれた陸前高田市のみんなにもうしわけないとふんばったのでしよう。  
この大切な一本松は、後世に残してほしいと思います。そして、命をつなぐために、一本松の枝の先を元気な松の苗木の幹につないだり、種をまいたりして何百本、何千本と増やして日本中を元気にしてほしいと思います。そして、これからもみんなを見守ってほしいです。ぼくは、いつか一本松に会いたいと思っています。その時は、こんなふうにはげばいいと思います。  
「君は、日本中をばげましてくれたよ。大津波が来たときはこわかっただろう。よくがんばったね。日本一強い木だよ。これから陸前高田市を笑顔あふれる町にしていく。ぼくも忘えんしているよ。」





# 電気学会 出前実験授業

8月30日（木）に電気学会より3名（山梨大学名誉教授および現職の教授）の先生が来校し、「液体窒素の実験」「光の偏光板の実験」の理科の授業をしてくださいました。

ものづくり教育の重要性が叫ばれる中、小中高生の理科離れを憂える声に歯止めをかけ、次世代を生きる子どもたちの道標となれるようにと本学会は、こうした事業に取り組んでいるそうです。



液体窒素は $-196^{\circ}\text{C}$ （ドライアイスは $-79^{\circ}\text{C}$ ）では液体の状態ですが、この中で風船や植物を冷やすとどのように変化するかを、一人一人が液体窒素の入った容器で実験することができました。空気を入れたビニル袋をこの中に入れると、空気が冷やされて液体になったり、しばらく放置するとまたビニル袋が膨らんだりする様子に驚いていました。草花は一瞬にして凍ってしまったりパリパリになってしまったり、ゴムボールは高い位置から落とすとガラスのように割れてしまったりするので大歓声をあげていました。

また、2枚の偏光板を使うと、透明なフィルムに張ったセロテープが変色する様子を観察し、偏光板2枚を挟んだボックスを作りました。

驚きを素直に表現したり、夢中でのものづくりに挑戦する子どもたちの様子に、3人の講師の方々が感激し、来年も本校に出前実験に来てくださることを約束してくださいました。

## 子どもクラブキャンプ

今年も学校に泊まりました。夕食に懲りましたよ！



鉄板焼きそば



焼き肉



こだわりカレー



ハンバーグ



# 運動会へ来てください！ 中部小

## 10月6日（土）

10月6日（土）に第54回秋季運動会を開催します。

中部小の子どもたち一人一人が全力で演技し、協力して作り上げる運動会です。得点種目にも熱が入ります。自分たちの運動会をよりよい運動会にしようと児童会が中心になって進んで活動する姿に中部小の力を感じます。

また、昨年度復活しました中部音頭を民踊部の皆様の御指導で本年度も行います。つきましては、踊り練習会を10月4日（木）午後7時30分より本校の校庭で行います。練習日にご都合がつかない方は、当日民踊部の皆様が丁寧に教えてくださいますので、当日はお気軽にご参加ください。

★プログラムにもありますように、一般種目が**“一発必中” “つなひき” “わ～投げ” “ちょっと走ってボン” (老人クラブ)**の4種目です。ご参加をお願いします。

★中部地区教育推進協議会専門部の皆さんが、焼きそばとフランクフルトとポップコーンを販売します。美味ですよ。素材にこだわっていますので、冷めてもおいしいです。



＜フレー、フレー、中部小！ 練習の様子を紹介します＞



11人全員で組立体操に挑戦します。踏ん張って、踏ん張って、頑張ります。

一輪車の新しい技に挑戦中です。



鼓笛行進です。当日のコスチュームをおたのしみに！

玉入れは得点種目です。45秒の戦いです。勝つのは、？

